

# 鳥取大学 地域学部

## 地 域 学 科

■ 地域創造コース

■ 人間形成コース

■ 国際地域文化コース

学部案内



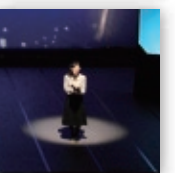
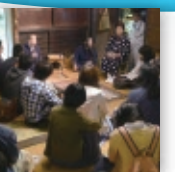
## Access

- 飛行機 鳥取砂丘コナン空港→鳥取キャンパスまで車で約5分
- JR 鳥取大学前駅→鳥取キャンパスまで約2分
- バス 鳥取駅→鳥取キャンパスまで約30分

## 鳥取大学地域学部

〒680-8551 鳥取市湖山町南4丁目101 TEL.0857-31-5073 (地域学部庶務係)

地域学部ホームページ <http://www.rs.tottori-u.ac.jp/>





## 地域の未来を切り開く

MESSAGE ー地域のキーパーソンを養成するー

### 鳥取大学 地域学部 学部長挨拶

東京は世界都市として発展を続け、地方は衰退している。こうしたイメージを漠然と持っている人はまだ多いでしょう。人口減少とともに多くの地方が消滅するという報告があり、これが最近の地方創生の動きにつながりました。一方、地方志向の若者は増えており、がんばっている地域は消滅しないという強い反論もあります。でもグローバル経済の成長が、すべてを解決するとまだ考えている人も多いようです。これに対し、今後の社会や暮らしを考える時、それだけではまずいのではないか、限界が来るとも考えられています。地球環境問題という限界もそのひとつです。そこで、新たな価値観やライフスタイルが展開しつつあります。グローバル経済とは異なる経済や社会のシステムもまた、今後、とても大事であるという考え方です。その基礎になるのが地域で考える視点なのです。

地域学部は、2004 年度に、地域の未来を切り開く地域のキーパーソンを養成することを目的に創設された学部です。「地域」とは人々が生活している空間の広がり、そこでの社会関係を示す言葉です。地域は自然環境や人間活動の様々な要素で構成され、それが地域の個性をつくっています。そして世界は、規模や性質の異なるさまざまな地域が重なり合って形成されており、人間が解決を迫られている多くの課題は、この地域をベースとして考えることができます。そのために既存の学問体系を再編成したのが「地域学」です。

2017 年度から地域学部は、人文社会科学系の地域学科1学科となり、地域創造、人間形成、国際地域文化の3コースを設け、地域課題にさらに学際的に融合してアプローチします。この改組にともない、自然環境や自然科学的アプローチについては全学的にカバーすることになります。新しい地域学部ではこれまでの実績を踏まえつつ、政策・経済・コミュニティ、そして芸術文化などに関するさまざまな地域づくり、生涯発達と地域教育、そして国際的な地域間の比較や関係についても教育研究を一層展開し実践力ある人材を育成します。

日本で一番人口が少ない鳥取県ですが、現代日本の課題を踏まえ、今後の社会のあり方を考える場所としては先進地域なのです。東京で見えないライフスタイルや価値観の新しい展望を、是非鳥取で見つけ下さい。

地域学部長 研究科長 藤井 正  
Dean : Tadashi FUJII

鳥取大学

地域学部

### 学科コンセプト

- 1 地域をつくりあげている諸要素(社会・文化・自然)に関する幅広い知識を修得し、それらを相互に関連づけて理解する高度な思考力を養成します。
- 2 地域にある様々な公共的課題を探究するために必要な知的好奇心を養います。
- 3 批判的判断力、創造的表現力、コミュニケーション力を発揮して、地域社会の課題解決にたずさわる実践力を磨きます。
- 4 最終的に、高い倫理観と責任感をもって地域社会の再生・持続的発展に貢献できる人材の養成を目指します。

旧

2016 年度  
入学生まで

地域学部 入学定員数 (190名)

地域政策学科 (49名)

地域教育学科 (49名)

地域文化学科 (48名)  
芸術文化コース

地域環境学科 (44名)

考古学等

理系分野

新

2017 年度  
入学生から

地域学部 地域学科 入学定員数 (170名)

地域創造コース (60名)

人間形成コース (55名)

国際地域文化コース (55名)

農学部生命環境農学科

### Contents

地域学部 地域学科 概要

3 ポリシー / 学部構成

5 教育体系 / 入学生と進路

7 ■地域創造コース

11 ■人間形成コース

15 ■国際地域文化コース

19 子どもの発達・学習研究センター

20 芸術文化センター

20 地域と連携した教育研究

23 国際交流

24 English Overview

25 大学院の概要など

## 地域学部教育の3つのポリシー

### 1 入学者受け入れの方針

地域学部では、地域とそこに生きる人々との関わりに関心を持ち、これを科学的に探究し、地域の持続的な発展に貢献したいと願う人を求めます。

### 2 学位授与の方針

地域学部は、学生が本学における学修と経験を通じて次の能力を身につけて、所定の単位を修得した時に学士の学位(地域学)を授与します。

1. 社会、文化、自然に関する幅広い知識・理解、これを土台とした、地域の公共的課題の探究に関わる深い知識・理解、方法と技能、そしてこれらを統合した豊かな教養
2. 地域に生起する様々な諸問題を探究し解決していくのに必要な論理的思考力、批判的判断力、創造的表現力
3. 地域の現実問題に対して幅広い視野と興味・関心を持ち、主体的・自律的・継続的に学び続けることができる生涯学習力
4. 高い倫理観及び責任感を持ち、他者との豊かなコミュニケーションをもとに、協力・共同して地域社会を創造する社会的実践力

### 3 教育課程編成の考え方

上記の学位授与方針で示した能力を学士課程の入学者全員が身に付けることができるよう、次の基本的な考え方で教育課程を編成します。

- 大学での学修の動機を明確にして、主体的に学修に取り組めるよう、大学入門科目及び学部・学科の専門に関わる入門科目を設けるなど初年次教育を位置づけます。
- 教養豊かな地域学士を養成するため、全学共通科目と学部の専門科目をバランスよく提供します。
- 総合的な地域学に関わる基本的な知識と実践力の修得のため、学部共通科目として、地域課題に対する学際的な視野・枠組みを学ぶ理論系の「地域学系科目」、実践的探求力の修得を目的とする「実践科目」、そして関連分野に関する知識を学ぶ「学部基礎科目」を設定します。  
また、これらをテーマに応じて総合し結実する「専門ゼミ」と「卒業研究」を設けます。
- 基本的な専門性に関する知識と方法論を修得させるため、各コースにコース科目を設定します。
- 理論に関する「地域学系科目」や「コース科目」と「実践科目」との相互往還を年次進行とともに進め、4年次の卒業研究で総合的な結実を図る、理論・実践相互往還型の融合的なカリキュラムを設定します。
- 他者と協働して、地域の諸問題を実践的に解決できる力を養うために、対話型・共同参加型の授業の展開に努めるとともに、海外を含めたフィールドワークなど活動的学びを積極的に取り入れます。

## 地域学部の構成について

### 1 地域学科の3コース

地域学科には、下記の3コースと学修を明確化するためのプログラムをおきます。



これらのプログラムは、学修のコアとなる専門的内容を明確にするための履修のモデルです。プログラム毎に、厳格な定員を設けたり、卒業要件単位を設定したりするものではありません。

#### 地域創造コース

地域の現在および将来の課題に対し、自治体、地域に密着した民間企業、NPO、各種の活動団体やコミュニティなどにおいて、「地域創造」に積極的かつ主体的に取り組むキーパーソンとなる人材を養成します。

#### 人間形成コース

人間形成に関わる諸理論を学び、生涯発達の立場から、学校教育を含む地域と教育の関係を再構築し、地域の人づくりを支えるキーパーソンとなる人材を養成します。小学校・幼稚園・特別支援学校の教員免許と保育士資格の取得が可能です。

#### 国際地域文化コース

様々な文化の関係を理解し、日本や世界の様々な地域で、異質なもの相互に認め合いながら、「つながりの創出」「一人ひとりの生活と生の充実」を実現するために求められる知識や技能、言語能力や現地感覚・現場感覚を身につけた人材の養成を目指します。

コース別の入学試験を予定しております。詳細は選抜要項をご覧ください。  
(注)教員免許状については、課程認定申請中(平成28年9月現在)であり、変更になる場合があります。

### 2 学部附属の2センター

#### 子どもの発達・学習研究センター

地域学部附属子どもの発達・学習研究センターは、附属学校部と共同して子どもたちの連続した育ちと学びに関する研究を行っています。教育実践研究や子どもの発達コホート研究、それに関する脳科学研究を中心に、学部の研究者をはじめとして、学部外・学外の組織・研究者とも連携して研究を推進しています。

#### 芸術文化センター

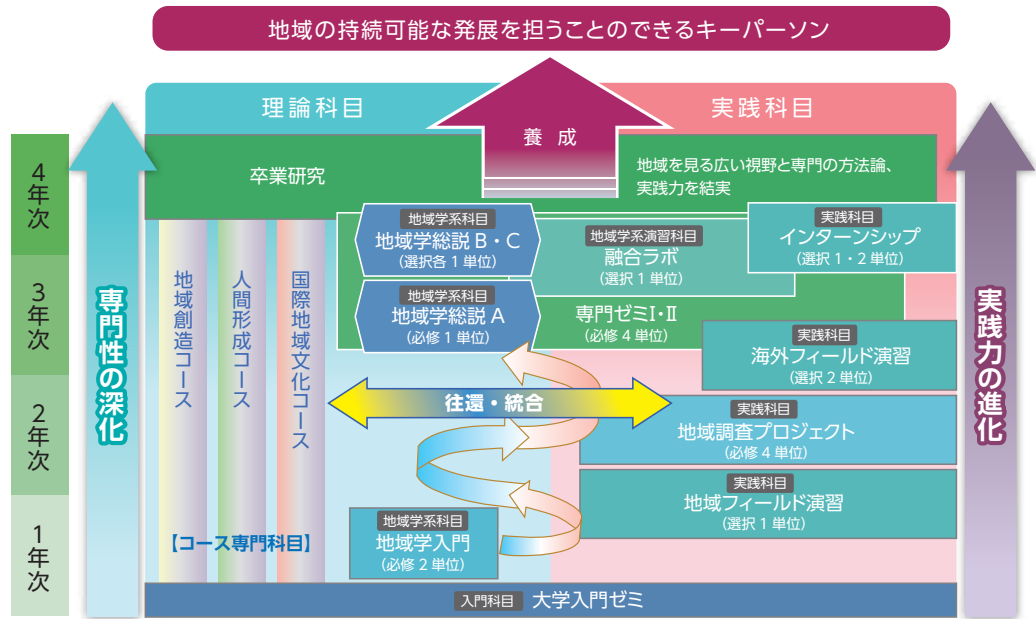
地域学部附属芸術文化センターは、地域の芸術文化の振興、その創造と発展、継承に役立つための研究と実践を行う組織です。鳥取という地域を主なフィールドとしつつ、開かれた地域研究の一環として、芸術文化活動に関わる個人や団体、享受者、支援者と協働し、様々な地域貢献活動を行っています。



教育体系

1 地域学部のカリキュラム

地域学部では地域学科1学科に3つのコースを設けます。これまで展開してきた地域学の教育研究の基本的な考え方を学部コアカリキュラムの理論科目「地域学系科目」で学び、学際的視野の基礎を獲得するとともに、「実践科目」で実践力を育成します。また、各コースにおいて専門を深め方法論を獲得します。1学科となることにより、他コースの専門科目をとりやすくなり、地域に関する学際的な視野を得やすくなります。



2 学部共通の主要科目

- 「地域学入門」(1年次／必修／2単位)  
地域学の特徴や、個別の専門分野と地域学との関係をつかみ、地域研究や地域づくりの実践例を学ぶことにより、地域学の基礎力を養う。
- 「地域フィールド演習」(1年次／選択／1単位)  
地域の特性や課題、地域づくりの実践例を現場において学び、地域の特性や魅力、地域課題とその解決への関心やアプローチする意欲の促進をはかる。
- 「地域調査プロジェクト」(2年次／必修／4単位)  
地域の特性と課題を把握し、地域特性を踏まえて多様な地域課題の解決を目指し、調査の方法、課題解決へのアプローチやプレゼンテーション、報告書作成などの基本的な技能を実践的に修得する。
- 「地域学総説A・B・C」(3年次／Aは必修、B・Cは選択／各1単位)
  - ・地域学総説A：2年次までの学修成果を踏まえ、公共的な諸問題を「地域」という枠組みで捉え、学際的に研究するための考え方を確立し、専門分野と地域学との関係をさらに深く考え修得させる。地域のキーパーソンとして自らのキャリアデザインと地域のコミュニティデザインの重ね合わせについても考える。
  - ・地域学総説B・C：個別のテーマで、実践的にあるいは専門テーマと関連する内容で、地域学の視点を学ぶ。
- 「専門ゼミⅠ・Ⅱ」(3年次／必修／各2単位)  
2年次までの理論的な学習と実践的な学習を融合し、自らのテーマを設定・探求し卒業研究に展開するための専門的なゼミ。
- 「融合ラボ」(3年次／選択／1単位)  
専門間にまたがる合同ゼミや実践的な企画を実施し、関連分野への理解と実践力を深める。(コース、プログラムを越えて、共通課題について学際的視点から議論を行ったり、調査・研究あるいは社会的実践を企画する合同ゼミなど)
- 「卒業研究」(4年次／必修／8単位)  
地域課題解決のための広い視野と専門の知識・方法論、実践力を結実させる。卒業論文を課す。
- 他に、グローバルに地域の視点を展開する「海外フィールド演習」。地域づくりに関係するものを含む「インターンシップ」などをテーマに応じて修得できる。

入学生と進路

1 地域学部の入学生

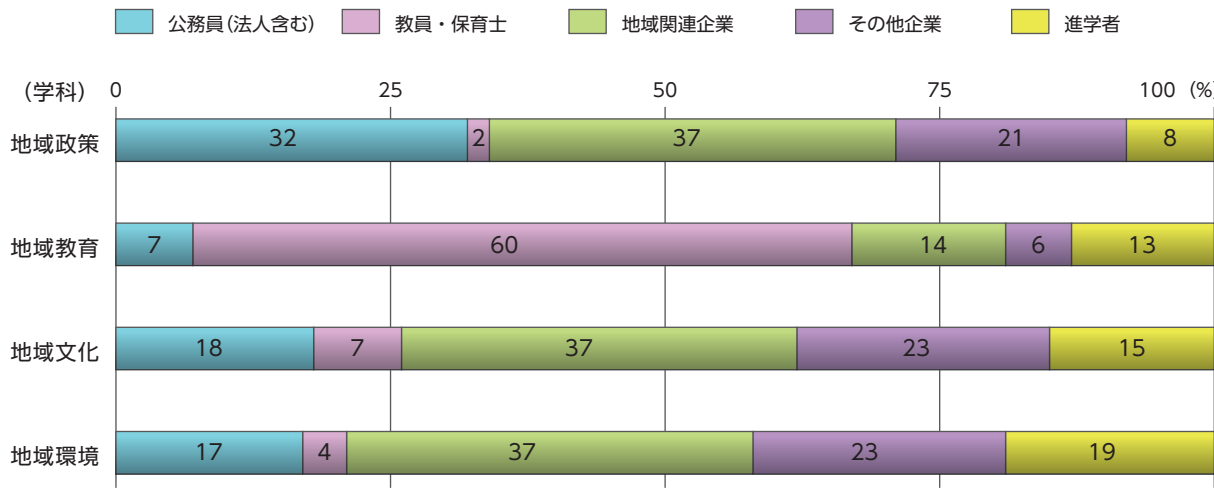
》地域別入学者数

| 入学年度   | 鳥取県 | 兵庫県 | 岡山県 | 島根県 | その他 | 計   |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 平成24年度 | 68  | 20  | 15  | 26  | 78  | 207 |
| 平成25年度 | 68  | 37  | 23  | 7   | 68  | 203 |
| 平成26年度 | 59  | 43  | 20  | 16  | 71  | 209 |
| 平成27年度 | 66  | 36  | 23  | 13  | 66  | 204 |
| 平成28年度 | 64  | 38  | 17  | 16  | 68  | 203 |

》男女別入学者数

| 入学年度   | 男   | 女   | 計   |
|--------|-----|-----|-----|
| 平成24年度 | 93  | 114 | 207 |
| 平成25年度 | 95  | 108 | 203 |
| 平成26年度 | 97  | 112 | 209 |
| 平成27年度 | 104 | 100 | 204 |
| 平成28年度 | 89  | 114 | 203 |

2 卒業生の進路状況 (H19年度～H27年度の卒業生)



地域関連産業 の産業分類

建設業、電気・ガスなど、運輸業、卸売・小売業、金融・保険業、不動産業  
飲食店・宿泊業、生活関連サービス業、医療・福祉業、教育・学習支援業(塾等)



# 地域創造コース

## 個性豊かな、ゆとりある地域をつくる

### 📖 学びの目的

人口減少社会を迎えた今日、地域を取り巻く環境や解決すべき課題はより一層複雑化、多様化しつつあります。少子高齢化や都市部への人口集中、過疎化の進行、地域コミュニティの希薄化、中心市街地の空洞化、逼迫した地方財政など、これらの課題は相互に関連し合う側面もあります。こうした地域課題に正面から向き合うには、地域づくりのための様々な分野からの理論形成と、自治体・住民・NPO・企業など多様な主体の協働による実践が求められています。地域創造コースでは、従来の発想にとどまらない新たな地域課題解決の手法を探求し、地域の望ましい姿を構想できる、「地域創造」に資するキーパーソンの養成を目指します。

### 目指せる免許と資格

- ・中学校教諭1種免許(社会)
- ・高等学校教諭1種免許(地理歴史・公民)・学芸員
- ・学校図書館司書教諭・社会教育主事 など

(注)教員免許状については、課程認定申請中(平成28年9月現在)であり、変更になる場合があります。

### 📖 学び・研究のテーマ

- 自治・分権を中心とした自治体制と法
- 自治体における地域計画のあり方
- 行政と住民とのパートナーシップを推進するための方策
- 住民の生活を豊かにするための地域組織のあり方
- 地域経済を発展させる公共政策のあり方
- 社会的課題を解決し地域の活性化を促すビジネスのあり方
- 地域の生活課題や福祉ニーズに対応した地域福祉のあり方
- 地域固有の資源を活用した豊かな地域のあり方

### 期待できる進路

地方自治体、政府機関、大学職員、警察、企業(金融・流通・運輸・観光・情報通信・製造業・テレビ局・新聞社など)、学校(中学・高校)、NPO・NGO、大学院(鳥取大学、他大学) など

### ▶ 地域調査プロジェクトの取り組みについて

2 年次必修科目の地域調査プロジェクト(旧名称「地域調査実習」)では、地域創造コースの2 年生全員が特定の調査対象地域に実際に足を運び、自らの関心や問題意識にしたがって地域の現状や課題を明らかにするとともに、今後の地域づくりに向けた提案などを行います。この取り組みを通じて学生は、社会調査や地域分析の基礎を身につけるとともに、住民との交流や報告会の開催などを通じてコミュニケーション力やプレゼンテーション力などの技能を磨きます。そして3 年次以降は、この地域調査プロジェクトで培った基礎力の上に専門的な知識や技術を積み上げ、総仕上げとしての卒業研究に挑みます。

本プロジェクトでは、地元自治体の多大な協力のもと、これまで湯梨浜町(2005～07 年度)、岩美町(2008～10 年度)、鳥取市南部地域(河原・用瀬・佐治)(2011～13 年度)そして琴浦町(2014～16 年度)を対象地域として調査活動を実施しています。そして1 年間の活動の成果は、年度末に現地で開催する報告会や、詳細な調査報告書を作成することによって公表されます。このように「地域調査プロジェクト」は、「知と実践の融合」を基本理念とする鳥取大学の教育グランドデザインや、「地域づくりのキーパーソンの養成」という地域学部創設のコンセプトを代表する授業だといえます。

## 「学びの柱」となる3つのプログラム

### コミュニティマネジメントプログラム

コミュニティマネジメントプログラムでは、都市や農村における生活環境や人々のつながりなど、コミュニティを形づくる諸要素について理解を深め、持続的なコミュニティを創造する手法や担い手のあり方について学びます。そのような学びをととして、コミュニティに蓄積されてきた生活の知識を掘り起こし、様々な分野の専門的知識と組み合わせながら、コミュニティの力を引き出していくコミュニケーション力やコーディネート力を身につけます。自治体や非営利組織、民間企業など、そして、地域の活動や生活の場をつうじて、地域創造を担う人材の養成を目指します。

### ソーシャルビジネスプログラム

ソーシャルビジネスプログラムでは、地域経済の構造や現状を世界経済や日本経済、コミュニティなどとリンクさせながら重層的な視点で把握した上で、地域経済を発展させる公共政策のあり方や現代社会におけるソーシャルビジネスの意義とその可能性を学びます。この学びを通して、地域全体を俯瞰して現状や課題を把握する能力や「新しい価値」を構想して実践する能力などを身につけます。このような能力を身につけることで、地域課題を解決する起業家、地域を土台にして活動を行う民間企業や非営利組織、自治体などで活躍できる人材の養成を目指します。

### 政策科学プログラム

政策科学プログラムでは、地域の自治や政策過程に関わる政治・行政のしくみを学び、また公共部門と住民の協働など地域における参画・意思決定のあり方を学ぶことによって、地域の公共的諸課題を解決するための実践力を修得します。この実践力とは、政策科学の基礎的・標準的な理論・方法を今日的課題に応用するための能力です。これらの学習を通して、自治体などの公共部門を始めNPO や民間企業において、政策や事業の企画・立案などを通じ地域に貢献することのできる人材の養成を目指します。

## 専任教員プロフィール

**小野 達也【教授】** ONO, Tatsuya (政策評価論)

- 行政評価・政策評価の理論に関する研究
- 行政評価・政策評価における統計的手法の研究

**佐藤 匡【准教授】** SATOU, Masashi (憲法学・法律学)

- 表現の自由やプライバシーの権利といった情報に関する権利についての研究
- 個人情報の管理や動物の個体識別情報の管理についての研究

**塩沢 健一【准教授】** SHIOZAWA, Ken-ichi (地域政治学)

- 住民投票の分析を中心とした、地域政治の実証研究
- 住民投票・地方選挙における有権者の投票行動

**竹川 俊夫【准教授】** TAKEGAWA, Toshio (社会福祉学)

- 地域福祉（地域を基盤とする福祉政策や民間の福祉活動）に関する研究
- コミュニティワークに関する研究

**丸 祐一【准教授】** MARU, Yu-ichi (法哲学・生命倫理)

- 生命と医療に関わる倫理的・法的・社会的問題の研究
- 自己決定を巡る問題の法哲学的研究

**多田 憲一郎【教授】** TADA, Ken-ichiro (地域経済学)

- 地域経済の持続的発展に関する研究
- 地域振興政策のあり方に関する研究

**馬場 芳【准教授】** BAMBA, Kaori (経営学)

- 地域の企業と経営者の機能についての研究
- 生産活動と流通についての研究

**白石 秀壽【講師】** SHIROISHI, Hidetoshi (マーケティング)

- 地域商業における小売業者の効率性と公平性に関する実証研究
- 企業の制度的補完性と多様性に関する実証研究

**藤井 正【教授】** FUJII, Tadashi (人文地理学)

- 都市圏(都市と郊外)の構造解明と整備の方向性について。
- 個性をいかした地域づくり

**山下 博樹【教授】** YAMASHITA, Hiroki (都市地理学)

- 持続可能で住みよい都市のあり方に関する国際比較研究
- 都市の商業施設立地の変化に関する研究

**筒井 一伸【准教授】** TSUTSUI, Kazunobu (農村地理学)

- 農山村の地域づくりに関する研究
- 農山村と都市の地域関係に関する研究

**仲野 誠【教授】** NAKANO, Makoto (社会学)

- 新しい包摂型コミュニティの可能性と限界に関する研究
- 様々な「マイノリティ」と地域住民との関係に関する研究

**家中 茂【教授】** YANAKA, Shigeru (環境社会学・村落社会学)

- 生活の立場からの環境(問題)研究
- 住民組織(自治会・NPO)論

**東根 ちよ【講師】** HIGASHINE, Chiyo (コミュニティ政策)

- 生活課題に対応するコミュニティ政策研究
- 公共領域の創造的活動に関する研究



## ■ 地域創造コースとは

少子高齢化、国際化、情報化など、地域を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。こうした変化は地域にこれまで以上に多くの課題を生み出しています。「地方創生」が叫ばれる今日においては、地域に関わる多様な人たちの新たな関係を模索しながら再構築し、地域における自然環境や人的・物的・歴史的・文化的資源を見つめ直し、能力を高めながら、自らの地域を築きあげていくことが求められています。

地域創造コースでは、このような知と実践の融合を求めて、地域を空間的に把握する力、そこで活動するさまざまな主体を捉え、主体どうしの関係性を見出す力、それらを支える制度を理解する力、さらには地域間を結びつける力など、これらの力にトータルに目配りができる広い視野を持ち、地域の課題解決に積極的かつ主体的に取り組む「地域創造」の担い手となることを目指します。



## ■ 学びのイメージ



# 3つの新たな地域創造の手法 主な専門科目

## コミュニティマネジメント

都市再生論、都市圏整備論、  
むらおこし論、文化政策論、地域福祉、  
コミュニティ創造支援論 など

## ソーシャルビジネス

地域経済論、経営戦略論、  
社会的起業論、ソーシャルマーケティング論、  
地域資源創生論、地域プロジェクト論 など

## 政策科学

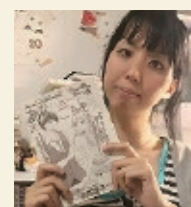
統治機構論、地域参画論、政策評価論、  
地域財政論、自治体政策過程論、行政法、  
自治法論、情報メディア法 など

これからの地域づくりにおいては、地域課題を「政策」として解決することに加え、固定観念にとらわれない新たな手法も取り入れながら、複雑な地域課題の解決に挑み、地域の将来像を「創造」していくことが重要となります。より良い地域をつくり上げるためには、地域づくりに関わる主体と手法の多様性を、これまで以上に強く意識し学びを深めることが不可欠であると考え、私たち地域創造コースでは、カリキュラムの充実を図りました。つまり、これまでの地域政策学科が掲げてきた問題意識をより一層明確にし、具現化したものが、地域創造コースが目指す学びのスタイルです。

## VOICE 卒業生の声

### 集英社の漫画誌『Cocohana』で漫画家デビュー

2009年3月 地域政策学科卒  
**武田 愛子** TAKEDA, Aiko



私が地域学部で学び、今でも大きな力になっているのは、インプット・アウトプットの作法です。フィールドワークでインプットした経験を、ゼミで議論し、アウトプットしていく。そうして形になっていったのが卒業論文です。フィールドワークでは、未知の領域に入り自分の視野を広げる大切さを、ゼミでは自分の経験を仲間と分析し、表現していくことの面白さを存分に学ぶことが出来ました。私は漫画家としては本当にスタートラインに立ったばかりで、まだまだ未熟ですが、漫画を描くうえでも、最も重要だと思っているのはフィールドワークです。部屋に閉じこもっていても、いいお話は描けないなぁと… (笑)。人との出会いや、新しい経験を大切にしていきたいと思うようになったのも、地域学部で苦楽を共にした仲間のお陰です。まだまだ漫画で描きたいことはたくさんあります。大好きな地元の魅力も、いつか漫画で描けるよう、精進したいです。

### 島根県庁勤務

2014年3月 地域政策学科卒  
**小村 貴美子** OMURA, Kimiko



私は大学在学中より、地元島根県の「活力あるしまね」づくりに携わりたいと考え、県職員（地方公務員）になりました。現在は防災危機管理課に勤務し、災害時の対応の他に、県民向けの防災に関する講演会や研修会の開催などを担当しています。学生時代は、学生主体で調査を進めるフィールドワークなどを通じて、地域で発見された課題を解決するためのアイデアを自分たちで出し合ってどうすればよいのかを調べ、考えていくことで課題を解決する力を養いました。現在はこうした経験が、どうすれば県民のみならず「災害は他人事ではない」と危機意識・防災意識を持ってもらえるのか、災害に強い地域を作るために地域住民へどのように働きかければよいのか、と日々考えながら仕事をするに活かされています。今後は島根県庁で様々な業務に携わりながら、大学で培った力をさらに磨き島根県の発展のために仕事をしたいと思っています。





## 「学びの柱」となる3つのプログラム

### 発達福祉 プログラム

子どもの社会的・文化的・心理的・医学的多様性と学習・発達との関係を学び、地域において、学習や発達に困難を抱える子ども達を含めたすべての子ども達の教育ニーズを満たすことのできる人材を養成します。卒業後は、幼児教育や特別支援教育や保育士など、広く社会福祉分野の現場で活躍するとともに、政策づくりあるいはそれを推進する人材養成の場で地域の人づくりを支える役割を担うことが期待されます。

### 学習デザイン プログラム

生涯発達の立場から人間の学びを捉え、学習科学の理論的・実践的理解に基づいて、様々な文化領域における効果的な学習や研修プログラムをデザインする力と実践力をもった人材を養成します。卒業後は、地域の企業における人材開発分野や教育産業のほか、小学校を中心に学校現場で教員として地域の人づくりを支えていくことも期待されます。

### 地域と教育 プログラム

家庭・学校・社会における教育の諸問題を地域の持続的発展との関わりにおいて捉え直し、教育学の立場から原理的かつ実践的に理解することを通じて、人々の生涯にわたる学習と発達を支援し、課題解決、社会づくりに貢献できる力をもった人材を養成します。卒業後は、教員や、各種の教育・福祉関連の施設の運営や行政機関、学校現場において地域との連携を図る中心的存在として活躍することが期待されます。

# 人間形成コース

〔学生定員55名〕

## 地域における人づくりのキーパーソンを育成

### 📖 学びの目的

人間形成コースでは、地域で暮らすすべての人々が、生涯にわたって豊かに発達していくための、学習支援と発達支援、そして発達福祉のあり方とその方法を学びます。このため、心理学、教育学、特別支援教育学、学習科学、保育学など基礎的な学問を学び、これをもとに、地域で起こっている発達と学習そして発達福祉に関する問題を発見し、解決する方途を探求します。こうして地域づくりの一環を担える、教師や保育士を含む地域における人づくりのキー・パーソンを育成します。

### 目指せる免許と資格

- ・幼稚園教諭1種 ・小学校教諭1種 ・特別支援学校教諭1種
- ・保育士（定員10名 入学後に選考します）
- ・社会教育主事 ・学芸員 ・学校図書館司書教諭

〔他コース・他学部での科目履修で取得可能な免許〕

- ・中学校教諭1種（国語、英語、社会、理科、数学、技術）
- ・高等学校教諭1種（国語、英語、数学、理科、地理・歴史、公民）

（注）教員免許状については、課程認定申請中（平成28年9月現在）であり、変更になる場合があります。

### 📖 学び・研究のテーマ

- 生涯にわたる人間発達の心理
- 障害児・者を含むすべての人々の発達を支援するための教育・福祉・医学
- 教育学の基礎と地域との教育調査に基づく教育計画作り
- 学校教育など幅広い文化領域の学習支援の内容と方法
- 乳幼児理解と保育現場に関する理論と実践

### 期待できる進路

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭、保育所、児童福祉施設の保育士、学校図書館司書教諭、教育関係職員、社会福祉施設などの職員、大学院など

〔近年の実績〕幼稚園・学校教諭（鳥取県、島根県、岡山県、兵庫県他）、保育士（鳥取市、倉吉市、神戸市、広島市他）鳥取県警、鳥取県庁、倉吉市役所、米子市役所、ゆうちょ銀行、米子信用金庫、JTB中国四国、ミサワホーム中国、トヨタカローラ広島、鳥取大学大学院、筑波大学大学院、福岡教育大学大学院 など

### ▶ 学びの特徴（実習・演習を通した活動的学び）

人間形成コースでは、希望する進路や資格等に合わせて、様々な実習の機会があります。小学校・幼稚園・特別支援学校における教育実習や、保育園・児童福祉施設における保育実習、さらには人間形成ゼミ等のゼミ活動を通じて、地域に出向き、調査活動を行っています。学校・放課後児童クラブ・児童福祉施設・子ども会・障害児者施設・NPO といった地域のさまざまな活動の場でボランティアを体験する機会も豊富にあります。



## 専任教員プロフィール

**山根 俊喜【教授】** YAMANE, Toshiki（教育方法学）

■教育評価の歴史的研究

**一盛 真【准教授】** ICHIMORI, Makoto（教育史・思想史）

■植民地主義とレイシズム

**児島 明【准教授】** KOJIMA, Akira（教育社会学）

■ニューカマーをめぐる教育課題

**河合 務【准教授】** KAWAI, Tsutomu（教育思想、(西洋)教育史）

■近代化と学校・家族の機能変容

**寺川 志奈子【教授】** TERAKAWA, Shinako（発達心理学・教育心理学）

■子どもの自我・自己、社会性の発達

**田中 大介【准教授】** TANAKA, Daisuke（発達心理学・認知心理学）

■子どもの社会性の発達に関する研究

**三木 裕和【教授】** MIKI, Hirokazu（特別ニーズ教育学）

■障害児教育における授業づくり

**小林 勝年【教授】** KOBAYASHI, Katsutoshi（臨床発達心理学）

■発達退行の弁証法的探究

**谷中 久和【講師】** YANAKA, Hisakazu（脳科学）

■ヒトの高次認知機能に関する研究

**塩野谷 斉【教授】** SHIONOYA, Hitoshi（保育環境論）

■保育の物的・空間的環境に関する研究

**高橋 千枝【准教授】** TAKAHASHI, Chie（発達心理学）

■幼児期の仲間関係・社会性の発達

**畑 千鶴乃【准教授】** HATA, Chizuno（児童福祉政策）

■養育困難家庭への地域での支援

**足立 和美【教授】** ADACHI, Kazumi（英語教育）

■英語によるアウトプット能力の開発

**住川 英明【教授】** SUMIKAWA, Hideaki（書写書道教育学）

■漢字仮名交じりの書の学びについて

**高橋 健司【准教授】** TAKAHASHI, Kenji（社会科教育学）

■地域の伝統文化の継承に向けた教材・学習開発

**小笠原 拓【准教授】** OGASAWARA, Taku（国語教育学）

■国語教員の学びと教養についての研究

**高橋 ちぐさ【教授】** TAKAHASHI, Chigusa（理科教育学、生物教育）

■科学的な思考力を育む理科の教材開発ならびに学習指導のあり方

**泉 直志【講師】** IZUMI, Naoshi（理科教育学）

■理科授業におけるアーギュメンテーションの促進に関する研究

**矢部 敏昭【教授】** YABE, Toshiaki（数学教育学）

■問題解決の学習における認知的研究

**溝口 達也【准教授】** MIZOGUCHI, Tatsuya（数学教育学）

■認識論的障害の克服に基づく数学教授学の研究

**土井 康作【教授】** DOI, Kousaku（技術教育学）

■手の不器用意識を抱く子ども研究

**福田 恵子【教授】** FUKUDA, Keiko（家庭科教育学）

■シティズンシップの育成に関する研究

**鈴木 慎一郎【准教授】** SUZUKI, Shin-ichiro（音楽教育学）

■音楽教育学における史的ならびに実践的研究

**関 耕二【准教授】** SEKI, Koji（スポーツ科学、教育生理学）

■地域や学校における健康・スポーツ活動の研究

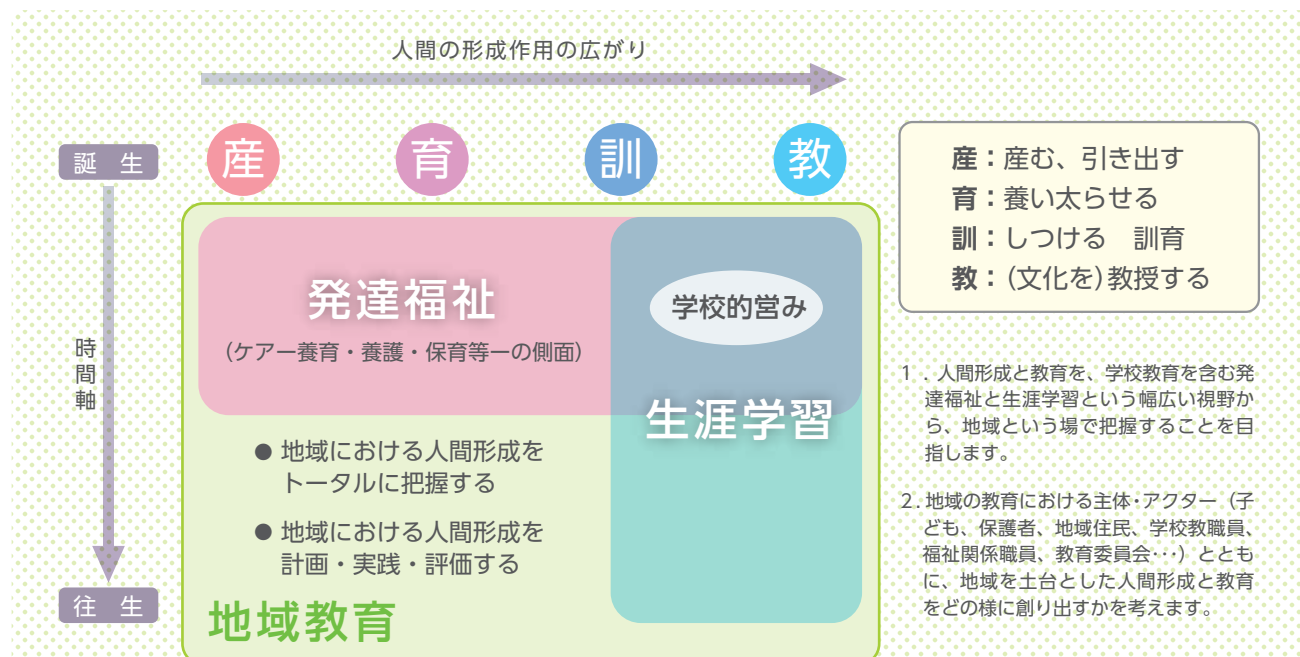
**武田 信吾【講師】** TAKEDA, Shingo（美術教育学）

■こどもの造形表現における発達の研究



# 人間形成コース

## 地域教育学の考え方



## 人間形成コースのカリキュラム

| 学年  | 必修科目等                                  | 演習・実習系                                              | 選択科目群                                                      |
|-----|----------------------------------------|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 1年次 | 地域学入門<br>地域教育学入門<br>学習社会論<br>学習とカリキュラム | 大学入門ゼミ<br>地域フィールド演習                                 | 心理学系科目<br>保育(幼児教育)学系科目<br>特別支援教育学系科目<br>教育学系科目<br>教科教育学系科目 |
| 2年次 | 生涯発達論                                  | 地域調査プロジェクト<br>保育実習<br>海外フィールド演習                     |                                                            |
| 3年次 | 地域学総説<br>家族支援論<br>地域教育福祉論(障害児)         | 保育実習<br>教育実習(基礎)<br>教育実践の基礎<br>インターンシップ<br>専門ゼミ     |                                                            |
| 4年次 | 卒業研究                                   | 教育実習(応用)<br>保育・教職実践演習(幼・小)<br>教職実践演習(中・高)<br>人間形成ゼミ |                                                            |

- 必修科目の、演習や選択科目によって、それぞれの将来を見据えた学びが可能です。
- 学年が上がる中で、自らの研究上の興味関心を踏まえたプログラムに所属して学びを深めていきます。

## 学生生活(年間スケジュール)

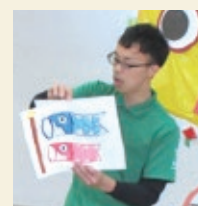
※代表的な行事や出来事です。時期など変更にある場合があります



## VOICE 卒業生の声

### 保育士(八頭町立保育所)

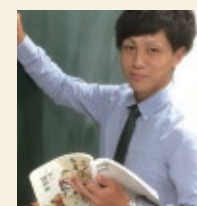
2013年3月 地域教育学科卒  
井上 将 INOUE, Shou



私は、「将来保育士になりたい」と中学生の頃から希望していました。大学受験時に4年間かけて保育をじっくり学びたいと思い、鳥取大学の受験を決意しました。私の入った幼児教育コースでは、4年間かけて保育の理念や実践を様々な角度から学ぶことができました。同じ目標をもった友人達との活動やボランティアの機会もたくさんあり、そこでできた多くの繋がりは、就職した今でも私の大切な財産となっています。

### 小学校教諭(東伯郡東郷小学校)

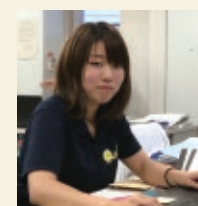
2014年3月 地域教育学科卒  
秋山 大樹 AKIYAMA, Masaki



学生時代、どの講義でも「つながり」という言葉が幾度となく繰り返されていたのを覚えています。人と人、人とモノ、人と地域、人と自然、私たちは様々なつながりを持って生きていることを学びました。私は今、小学校で教員として働いていますが、学校現場はまさにつながりばかりです。子どもたちの成長を語り合う教員同士のつながり、子どもたちのことを考え学校と家での様子を伝え合う保護者の方々とのつながり、運動会や学習発表会を共に盛り上げる地域の方々とのつながり。その中心に自分が立っていることを自覚し、日々を過ごしています。

### 児童指導員(米子児童相談所)

2015年3月 地域教育学科卒  
山西 智美 YAMANISHI, Tomomi



地域教育学科の魅力は、入学してから色んな分野を学んだ後に興味ある分野のゼミを選択出来る点だと思います。私は小学校教員を目指して入学しましたが、様々な講義を受けるうちに福祉に興味を持つようになり、福祉の分野で働くことに決めました。児童相談所は子どもに接する職場なので、教育と福祉は異なることも多いですが、大学時代に学んだ知識や教育実習などの経験一つ一つが今の仕事にいかされていると思います。





# 国際地域文化コース

〔学生定員55名〕

## 日本と世界の様々な地域で「一人ひとりの生活と生の充実」「つながりの創出」を文化を通じて実現していくために

### 📖 学びの目的

国際地域文化コースでは、現代社会の文化的特質を理解するとともに、人や文化がグローバルに移動するなかで、国や地域で歴史的に形成されてきた文化が異なる文化と出会い、選択・受容・反発・混淆を通して絶えず変化していくことを学びます。そして、芸術文化を含む様々な文化、それらの関係性と変化、様々な文化が生活においてもつ意味を、深く理解することを目指します。こうした学修によって、自らを知り、また日本を含む世界の様々な地域で、異質性を理解し、創造性を活かして「一人ひとりの生活と生の充実」「つながりの創出」を実現するために必要な知識と技法、言語能力や現地感覚・現場感覚を身につけた人材を養成します。

そのための学びの柱として3つのプログラムを設けています。考古・歴史・言語・文学を軸に地域や日本の文化を深層から学ぶ〈日本の歴史と文化〉、英語・中国語・韓国語などの言語のほかに、多様な地域の歴史と文化について学ぶ〈グローバルな文化と地域〉、芸術などを通じて、新たな見方や生き方を生み出す「創造性」の社会的役割を実践的に学ぶ〈創造性とコミュニティ〉です。

### 🔪 学びの特徴

- 以下の3つのテーマの下、多様なフィールドワーク系の授業を展開します。
  - ・地域の文化資源を再発見し評価・保存や活用する基礎を学ぶ
  - ・様々な文化の関係性や重層性を理解し、異文化に関わる現地感覚や現場感覚を身に付ける
  - ・「創造性」の社会的役割を、文化を通じたまちづくり活動や芸術実践活動への参加を交えながら多角的に学ぶ
- これらの授業は、教室で学ぶだけではなく実践的な学習の機会であると共に、地域に住む人々と協働して課題に取り組むことで、豊かな地域づくりに貢献することにもなります。

また、現地感覚を養うために、海外フィールドワーク・海外調査実習・短期語学研修・長期留学など、海外に行くことを勧めます。

例：アストン大学(イギリス)、ウオータールー大学(カナダ)、アデレード大学(オーストラリア)、南バハカリフォルニア自治大学(メキシコ)、マラヤ大学(マレーシア)、マケレレ大学(ウガンダ)、廈門大学、北京林業大学(以上、中国)、高雄師範大学、銘傳大学(以上、台湾)、翰林大学校、釜慶大学校(以上、韓国)

### 📖 学び・研究のテーマ

- 多様な文化遺産の評価・保存や活用
- 日本文化の歴史と現在の姿の解明
- 多様な文化が織りなす関係性とそれが生活においてもつ意味の探究
- 文化的相違の尊重と多文化的現実に対応する柔軟性の涵養
- 芸術実践などを通じた創造的コミュニティの構築
- 芸術文化の創造・発信とそれに必要なアートマネジメント力
- 豊かな地域をつくるための知識や能力の修得

### 目指せる免許と資格

- ・学校図書館司書教諭・学芸員
- ・中学校・高等学校教諭1種免許(国語・英語) \*教職関係科目の履修が必要
- ・日本語教師

(注)教員免許状については、課程認定申請中(平成28年9月現在)であり、変更になる場合があります。

### 期待できる進路

公務員(国家・地方)、文化関連財団職員、文化NPO職員、国際交流員  
民間企業(銀行、マスコミ、出版、広告、旅行・観光、ソフトウェア、運輸、文化施設運営、イベント企画、教育等)  
美術館・博物館学芸員、中学校・高等学校教員、日本語教師、大学院進学 など

## 「学びの柱」となる3つのプログラム

学修を明確化するために、学生の希望に基づき2年次後期に選択 \*定員は設けません

### 日本の歴史と文化

本プログラムは、自然と人間の営みが創り上げてきた日本と列島の歴史や、人間の豊かな内面世界を理解し、日本の文化について多面的に学ぶプログラムです。授業では、大地に眠る遺物資料や文字資料などから日本の歴史や文化遺産の重要性を考えると同時に、日本語学・日本文学を通じて日本の文化についての理解を深めます。人間の創り出した遺物と書物の双方を通じて日本の文化をより深く学んでいくことが、このプログラムの特徴です。また、欧米や東アジアなどの歴史や文化に関わる科目とあわせて履修することで、日本の歴史と文化を広い視野から捉えられるようになります。さらに、実践的な科目を通じて、地域の豊かな文化資源を再発見し、評価・活用する基礎を学びます。

### グローバルな文化と地域

本プログラムでは、近現代社会の成り立ちと文化的特質、世界の様々な文化とその出会いから生まれる変化、文化が生活においてもつ意味などを多角的に学びます。多様な文化が織りなす関係性を捉えるまなざしを鍛えることで、歴史や文化の違いを認め尊重しつつ、絶えず変化していく多文化的現実柔軟に対応できる発想力と行動力の獲得を目指します。

本プログラムの特徴は、世界の様々な地域の言語・歴史・文化・社会・芸術などを学術的に学べることです。また海外での語学研修やフィールド演習等を通して、現地感覚・現場感覚を身につけながら、多文化的な状況で生じる課題に実践的に取り組んでいきます。

### 創造性とコミュニティ

さまざまな芸術や文化の源である「創造性」は、私たちひとりひとりの生を充実させるものであると同時に、異なる文化を背負った人びとと共に暮らしていくために必要な「ゆるやかなつながり」の術ともなるものです。

本プログラムでは、文化と文化をつなぐアートの役割や、身体表現と豊かな生の関係、素直な自己表現を通じた他者との交わりを学ぶことで、自らの可能性を切り開き、また「ゆるやかなつながり」が紡ぐコミュニティについて学びます。アートやデザイン、フィールドワーク調査研究や地域の実践活動への参加を通じ、異文化がぶつかりあう現代社会をより豊かなものへと変えていくために必要な専門的知識と実行力を身につけることを目指します。

## 専任教員プロフィール

### 榎木 久薫【教授】

ENOKI, Hisashige (日本語学・日本語史)  
■日本語の歴史的研究(主に音韻史、文法史)  
■近代日本語と漢文

### 岸本 寛【教授】

KISHIMOTO, Satoru (日本史学)  
■明治維新史／幕末維新期の政治と宗教  
■鳥取の近代史

### 岡村 知子【准教授】

OKAMURA, Tomoko (日本近代文学)  
■昭和期文学の思想的系譜  
■日本におけるマイノリティ文学

### 久保 堅一【准教授】

KUBO, Ken-ichi (平安文学)  
■『源氏物語』を中心とする平安時代の物語の研究  
■和漢比較文学

### 高田 健一【准教授】

TAKATA, Ken-ichi (考古学)  
■弥生時代から古墳時代にかけての金属器生産と流通に関する研究  
■原始古代における集落構造と地域社会の形成に関する研究

### 中原 計【准教授】

NAKAHARA, Kei (環境考古学)  
■木材利用史の環境考古学的研究  
■木製品の生産と流通(主に弥生時代)  
■人と自然環境の相互関係史

### 李 素妍【准教授】

LEE, Soyeon(保存科学)  
■出土鉄製文化財の腐食や保存に関する研究

### ケイツ・キップ【教授】

CATES, Kip A. (言語と文化、国際理解)  
■言語、文化、コミュニケーション、国際交流に関する研究  
■グローバル教育、国際理解教育、外国語教育に関する研究

### 内藤 久子【教授】

NAITO, Hisako (音楽学・中東欧の文化史研究)  
■中東欧地域の音楽文化史論およびフォークロア研究  
■表象文化を対象とした文化ナショナリズムの研究

### 柳原 邦光【教授】

YANAGIHARA, Kunimitsu (フランス近代史)  
■フランス近代の文化的変化に関する研究  
■フランス革命期から今日までの政治と宗教に関する研究

### 茨木 透【准教授】

IBARAKI, Toru (文化人類学・西アフリカ研究)  
■西アフリカ研究  
■コートジボワールのアジュクル社会・ニジェールのトゥアレグ社会の研究

### 中 朋美【准教授】

NAKA, Tomomi (アメリカ研究・文化人類学)  
■アメリカの宗教と社会、文化  
■アーミッシュ、メノナイトの宗教と経済活動の研究

### 長柄 裕美【准教授】

NAGARA, Hiromi (英文学)  
■近現代イギリス小説  
■異文化を背景にもつ作家研究

### 柳 静我【准教授】

YU, Jeungah (東洋史)  
■18世紀清ーチベット関係  
■伝統中国の都市を中心とする地域社会の比較史的研究

### 中尾 雅之【講師】

NAKAO, Masayuki (英語学)  
■英語文体論  
■語りのスタイルと視点

### ギンナン・アレクサンダー【助教】

GINNAN, Alexander K. (文化交流論)  
■視覚文化と地域研究  
■文化理論、批評理論

### 石谷 孝二【教授】

ISHITANI, Koji (彫刻)  
■現代具象彫刻の研究  
■彫刻の発想法の研究

### 五島 朋子【教授】

GOTO, Tomoko (アートマネジメント)  
■地域劇場の運営に関する研究  
■芸術文化の創造性をいかしたまちづくりに関する研究

### 西岡 千秋【教授】

NISHIOKA, Chiaki (音楽・指揮)  
■初心者への発声指導に関する研究  
■声楽作品の演奏法

### 平井 寛【教授】

HIRAI, Satoru (デザイン)  
■基礎デザインの手法による作品制作の研究  
■コンストラクティブ・アートの研究

### 筒井 宏樹【准教授】

TSUTSUI, Hiroki (美学美術史)  
■日本近現代美術史  
■アメリカ近代美術史

### 木野 彩子【講師】

KINO, Saiko (ダンス)  
■ダンスを通じたコミュニティの形成  
■近代日本における身体観の変遷

### 佐々木 友輔【講師】

SASAKI, Yusuke (視覚メディア表現)  
■映画による場所論・風景論  
■映画・ドキュメンタリー制作の理論と実践



# 国際地域文化コース

## フィールドワーク参加学生の声

日本と世界の様々な地域で  
多彩なフィールドワーク活動を展開しています。

### ホスピテイル・プロジェクト

Y.K.

ホスピテイル・プロジェクトは、鳥取市内の廃病院を舞台に、様々な芸術実践者などと協働しながら、アート作品の制作と展示、ワークショップやトークの実施、カフェの運営などを行うアートプロジェクトです。私たちもスタッフとして活動に参加しました。



### 東アジアフィールドワーク

S.N.

中国廈門研修では、中国語の授業・文化体験・実地調査等があり、異文化を肌で体験することが出来ました。また、台湾現地調査（地域調査実習）では、インタビューや見学を通して、台湾の歴史や民間信仰の調査を行いました。



### 考古学・保存科学フィールドワーク

T.K.

私たちは、地域の歴史遺産を調査するとともにその保存を考える、考古学・保存科学のフィールドワークに参加しました。地道な作業が多いですが、歴史を読み解く重要な手がかりを発見する醍醐味もあり、あわせてチームワークの大切さも学んでいます。

### 城下町鳥取の再発見

T.S.

地域には歴史的・文化的な資源が眠っており、その再発見は大変重要なものです。私たちは地域調査実習で、変わりゆく鳥取城下を「消えゆく川」「移り変わる寺社」「城下を支えた水道システム」といったテーマで調査し、その成果を地域に発信しました。



### 北米プログラム

R.K.

北米プログラムでは、日系移民の歴史や現状をはじめ、性的・人種的マイノリティーやジェンダーの問題などを幅広く学ぶことが出来ました。また、現地でのインタビュー等を通して、英語の実践力を身につけることも出来ました。



### 山陰のアカペラグループ

M.M.

私は地域調査実習で、高校時代から活動していたポップスアカペラをテーマに、インタビューやアンケート調査を行いました。身近な興味や関心から「地域」の課題が見えてくると思います。私も、地域の文化活動を活発にするにはネットワークづくりや情報交換が重要だと分かりました。

## カリキュラム

コース展開科目は、選んだプログラムの科目を中心に、他プログラム・他コースなどの科目を選択して履修します。表には、各プログラムで推奨する他コースなどの科目を示しています。

■ 青字は実習・演習科目 ■ 緑字は他コースなどの科目

| 学部学科<br>コース<br>プログラム | 学部共通科目(必修)<br>○印は選択                                                                               | コース基幹科目(必修)<br>○印は選択                                                             | コース展開科目(選択) プログラムごと                                                                                                            |                                                                                                                                  |                                                                                                                                 |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                      |                                                                                                   |                                                                                  | 日本の歴史と文化プログラム                                                                                                                  | グローバルな文化と地域プログラム                                                                                                                 | 創造性とコミュニティプログラム                                                                                                                 |
| 1年                   | 地域学入門<br>○地域の課題と創造<br>○地域社会論<br>○地域調査法<br>○企業と地域<br>○児童福祉論<br>○地域フィールド演習                          | 国際地域文化序説<br>グローバリゼーション論<br>世界システム論<br>日本語と文化<br>芸術文化形成論<br>アカデミック・リーディング・ライティング1 | 日本古典文学概論<br>日本近代文学概論<br>日本語と地域<br>文化財保存修復概論<br>考古学入門<br>書写書式演習<br>創造地域論                                                        | アメリカ研究入門<br>東アジア地域史<br>社会言語学入門<br>国際理解(グローバル・スタディーズI・II)                                                                         | ビジュアル・アーツ入門<br>パフォーミング・アーツ入門                                                                                                    |
| 2年                   | 地域調査プロジェクト<br>○地形学I・II<br>○生態学I<br>○地質学<br>○海外フィールド演習A・B                                          | 西欧近代史<br>現代文化社会論<br>人と自然の関係史<br>アカデミック・リーディング・ライティング2<br>○国際地域文化特殊講義I・II         | 日本近代文学<br>日本古典文学講読<br>日本語と地域<br>中国古典文化論<br>文化財保存修復概論<br>考古学入門<br>書写書式演習<br>創造地域論                                               | 英米文学形成論<br>英語圏文学と文化<br>日英比較文法論<br>東アジア文化史<br>フォークロアと民族文化<br>食文化論<br>アフリカ地域文化論<br>実践英語I・II<br>多文化共生社会論                            | アートマネジメント論<br>文化施設マネジメント論<br>ダンスと多文化コミュニティ<br>音楽と多文化コミュニティ<br>視覚メディアと多文化コミュニティ<br>デザインと多文化コミュニティ<br>創造地域論<br>ワークショップ入門<br>認知心理学 |
| 3年                   | 地域学総説A<br>専門ゼミI・II<br>○地域学総説B・C<br>○環境教育論<br>○自然災害論<br>○生態学II<br>○比較教育<br>○融合ラボ<br>○インターンシップA・B・C | ○国際地域文化調査実習(日本・グローバル・創造性)I・II                                                    | 日本古典文学<br>日本現代文学<br>日本語と近代<br>漢文学講読<br>書道教育論<br>日本近代史<br>考古資料調査法<br>古環境調査法<br>歴史資料保存論<br>コミュニティ創造支援論<br>ソーシャルマーケティング論<br>文化政策論 | 国際交流と異文化理解<br>英米文学講読<br>アメリカ地域文化論<br>英語学概論<br>ヨーロッパ芸術文化史<br>西欧における宗教と社会<br>伝統文化論<br>スピーチコミュニケーション<br>実践外国語(中国語・韓国語)I・II<br>比較地域論 | 芸術学実践<br>アートマネジメント実践<br>パフォーミング・アーツ実践(音楽・身体表現)<br>ビジュアル・アーツ実践(視覚メディア・デザイン)<br>コミュニティ創造支援論<br>ソーシャルマーケティング論<br>文化政策論             |

## VOICE 卒業生の声

### (株)北國新聞社勤務

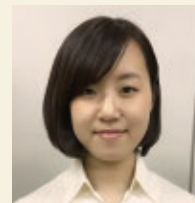
2012年3月 地域文化学科卒  
出口 大介 DEGUCHI, Daisuke



私は地元石川県の北國新聞社の営業局に勤務しています。仕事は新聞広告のセールスが主ですが、ほかにも新聞社の主催事業の運営や組み立て、協賛社集めなど、多岐にわたっています。お客様は、小さな商店から地元を代表する大企業まで様々ですし、業種も医師や教師、お坊さんなど色々ですが、いずれも地域の生活に密接に関わっています。私は大学時代「地域」をキーワードに様々なことを学びました。地域と関わる仕事をする上で、ものを知っているか否かはとても重要です。お客様との世間話で知識が試されます。事業運営で課題に突き当たることもあります。そういう時に、大学時代に培った知識や思考の仕方がわたしを助けてくれます。これからも自らの地域学を育て学び続けたいと思っています。

### (株)関西エアポートエージェンシー勤務

2015年3月 地域文化学科卒  
平尾 萌子 HIRAO, Moeko



私はもともと海外に興味があり、在学中に大学のプログラムを利用して、多くの国へ渡航しました。初めてのアメリカ渡航で、自分の中にあった当たり前を何度も覆され、もっと世界を見たい!と思うようになり、その後もフィリピン・インドネシア・マレーシアへ渡航しました。その経験から、もっと世界と繋がりたい、色んな人に出会ってみたいと思うようになり、現在は国際空港で働いています。お客様のほとんどが外国の方で、毎日さまざまな言葉で「ありがとう」と言って頂き、自分と世界の距離が日に日に近くなっていると感じます。大学では、自分の「やってみたい」と思ったことをまずやってみてください。そうして重ねた経験、そこで出会った人々は、これからの人生の大きな宝物になるはずです。

### (有)アクティブ・プロ(米子市)勤務

2016年3月 地域文化学科卒  
中野 ゆみ NAKANO, Yumi



大学では音楽や舞踊、美術など様々な芸術やアートマネジメントを学びました。講義や自分自身の表現活動を通して芸術の魅力を改めて感じ、「芸術活動をしている人たちに支えたい。多くの人に芸術に親しんでもらいたい」という思いがより強くなりました。現在は、各種イベントや学術大会などの会場設営から運営までをトータルサポートする地元の企業に勤めています。また事業拡大で、新築される公共ホールの運営や文化事業の企画なども、今後展開していくことが決まりました。以前からの思いが実現できる事業に携わることになり、とてもワクワクしています。芸術を通じた豊かな地域づくりに少しでも貢献したいと考えています。

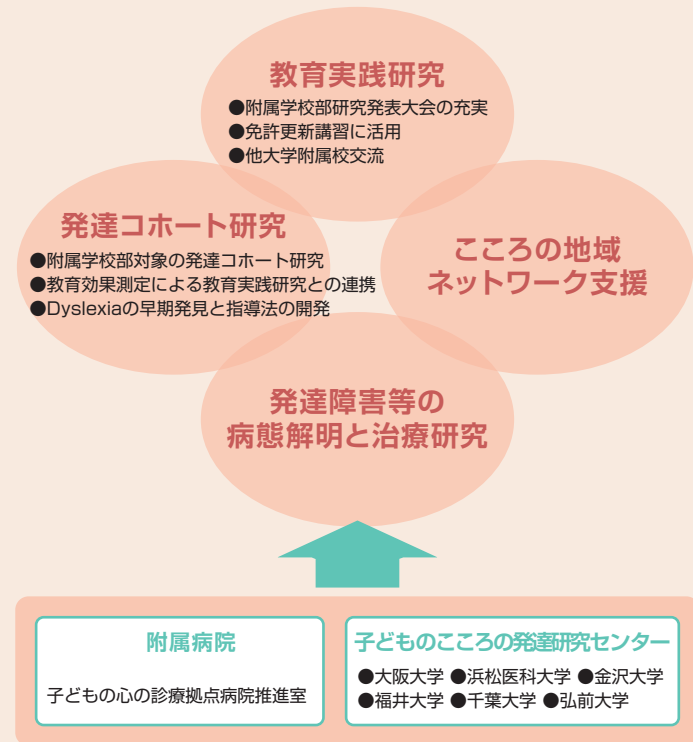


# 子どもの発達・学習研究センター

http://www.rs.tottori-u.ac.jp/kodomo-center/

## 子どもの育ちと学びを研究し、地域の学校教育や家庭教育へ情報発信する

本センターは、附属学校部と授業実践の研究を行う教育実践部門、子どもの育ちと学びのコホート調査や発達障害等の研究を行う認知脳科学部門、地域貢献を行うこころの地域ネットワーク支援室から構成されています。幅広い研究を行うために、構成員は地域学部所属教員に限っていません。学内では附属学校部や医学部附属病院子どもの心の診療拠点病院推進室と連携して、学外では他大学の子どもこころの発達研究センター（大阪大学、浜松医科大学、金沢大学、福井大学、千葉大学、弘前大学）と連携した研究を行っています。学外への情報発信として、鳥取子ども懇話会を通じて、地域の公教育や家庭教育に反映するための支援と情報発信を行っています。



### 附属学校部と連携した様々な研究を実施

教育実践部門では附属学校部をフィールドとして教育現場と連携しながら様々な実践研究を展開しています。各教科の実践研究だけでなく、教師のキャリア形成や内面の変容に注目した質的な研究も行っています。

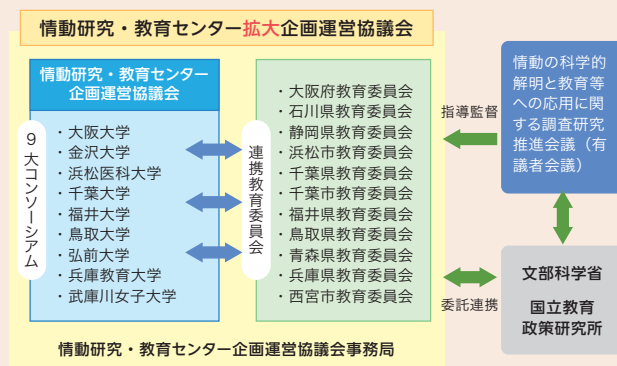
認知・脳科学部門では、子どもたちの発達のな変化を明らかにすることを目的として、附属小中学校の子どもたちを対象としたコホート研究を推進しています。コホート研究では同一の子どもたちを対象として数年にわたり様々な調査等を行うことにより、発達の質的な転換点を明らかにすることを目指しています。また、教育や子どもとの関わりに生かせるような研究を進めています。また、これらの知見をベースとして脳の構造や機能がどのように発達していくかについて、脳科学的な研究を行っています。



### 全国の子どもセンターと連携した研究プロジェクトを実施

地域学部附属子どもの発達・学習研究センターは、大阪大学を基幹校として、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学、福井大学、弘前大学、兵庫教育大学、武庫川女子大学とともに文部科学省の事業「子どもみんなプロジェクト」に参画しています。この事業では、いじめや不登校を中心とした子どもの様々な問題に対して、各大学の持つ研究成果やノウハウを生かして9大学で連携して取り組んでいます。また、9大学だけでなく、各地の教育委員会とも連携して、大学の研究者だけではできない教育問題の調査・研究を推進しています。

これらの枠組みを活かして、本事業では、鳥取大学地域学部が長年にわたって取り組んできた子どもの発達に関する知見を含め、各大学が持つ発達の・教育的な研究成果を学校現場へ還元していきます。また、学校現場での問題や子どもの発達について大学・地域の枠を超えて調査し、教育に生かすための基礎的な研究も進めています。



# 芸術文化センター

http://www.tottori-artcenter.com/

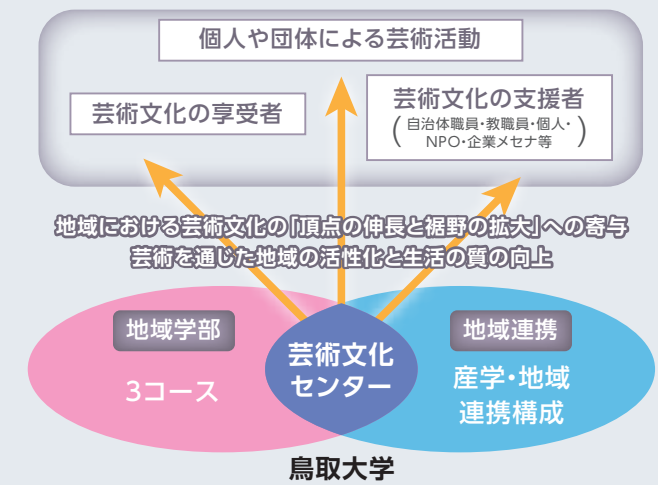
## 人と人の心をつなぐもの、それが芸術文化です。



### 芸術文化センターとは？

地域学部附属芸術文化センターは、地域の芸術文化（音楽・美術・舞踊・視覚メディア・アートマネジメントを中心とする）の振興に役立つための研究と教育を行う組織です。鳥取という地域を主なフィールドとしつつ、開かれた地域研究の一環として、地域の芸術文化の振興、その創造と発展、継承に役立つための研究と教育を行います。芸術文化センターは、地域の発展に欠かせない芸術文化の分野を担当し、地域における芸術文化の「頂点の伸長と裾野の拡大」に貢献します。

芸術文化センターでは、教員各自が固有の教育研究領域を設定し、芸術文化分野における専門性を生かしたオリジナル研究を行います。そして積極的に政策提言を行い、芸術文化を通じた地域の活性化と生活の質の向上に貢献します。



### 基礎研究

- 今日の地域にとって、芸術文化はどのような意味を持つのか
- 地域の芸術文化資源の把握とそのマッピング
- 地域の芸術文化施設の現状と問題点の分析及び有効活用の方策

### 交流と情報発信

- 学会等と連携し、国内外における芸術文化とその振興にかかわる情報の収集・分析と、地域への発信を行います。
- 芸術文化に関わる個人・団体・行政等が自由に意見交換できる交流の場を設けます。

### 支援と育成

- 幼児から高齢者まで、また障害者を含むユニバーサルな形で住民が参加できる芸術文化はいかにして可能か。その多様な実現方式を探り実施します。
- 次世代への芸術文化の継承・育成のための活動を推進します。
- 学内外において芸術文化センター教員等の発表を行い、地域住民に芸術文化に触れる機会を提供します。
- 学内外において芸術文化に関わる講演等を実施します。
- 地域住民に芸術文化に関わる実技指導等を行います。

### 芸術文化センター主催事業例

#### 【講演会等の実施】

- 美術家梅津庸一講演会 2015年2月 会場 SAKAE401
- 連続講座「地域からアートを考える」 2015年2月 会場 アートプラザ

#### 【演奏会・公演等の実施】

- エマニュエル・パッサン誕生300年記念コンサート 2015年1月 会場 みささ美術館 他
- ダンス・音楽公演「MOBIUS」 2016年8月 会場 旧横田医院 他

#### 【その他の事業】

- 地域劇場のためのアートマネジメント講座 2013-14年 会場 鳥取大学 他
- ワークショップデザイナー講座 2013-15年 会場 鳥取大学 他
- ワークショップ和紙の可能性 2013-15年 会場 青谷和紙工房





地域貢献事業

- 多文化共生の鳥取を目指して一地域の外国人住民と共に生きる知恵の創出—
- 鳥取県における中間支援組織との協働をつうじた地域づくり活動・NPO 活動の活性化
- 「つながりの貧困」問題研究—社会関係資本からのアプローチから—
- 住民の生きがいづくりのためのエコミュージアムワークショップの開発
- 鳥取大学ものづくりネットワークプロジェクトによるものづくり教育実践
- アートワークショップ「つくる・やく・もちいる」
- 地域の人をダンスでつなぐ「ダンスポケット」
- エマニュエル・バツハ生誕 300 年記念コンサート
- 用瀬町地域支え愛ネットワーク構築事業—住民主体の地域包括ケアシステムづくりの推進—
- 日野川源流域における水質・生態系調査
- コミュニティ力向上に向けたワークショップスキームの開発
- 地域の特色ある歴史を活かした教育プログラムの研究開発
- オオハングウソウの除草を中心とした森林資源の維持・有効活用について
- 日野川源流行における水質・生態系調査
- 〈森林に依拠した〉持続可能な多世代共創コミュニティの形成
- 鳥取の美術文化に関する地域資源を活用した教材開発の実践的研究
- 山陰海岸ジオパーク白兎海岸以西の成り立ちを読み解く—ジオストーリーの開発—
- ひらがな音読支援事業



ダンスポケット2014春(ゲスト:松本 大樹氏)



多文化の鳥取に出会おう—フィリピン人、中国人、ムスリム、それぞれのコミュニティに学ぶ—



地域の課題解決力向上講座

地域再生プロジェクト(文部科学省特別経費事業)

- フィールドワークによる地域再生教育プログラムの整備 鳥根県海士町
- フィールドワークによる地域再生教育プログラムの整備「山里の聞き書き」 鳥取県智頭町
- フィールドワークによる地域再生教育プログラムの整備 鳥取県日南町
- 地域づくりインターンの展開
- 地域自然環境を活用した保育 —智頭—
- 里山の多様性・健全性維持に向けた学生フィールドワーク
- 児童と学生の協働的活動による地域のおもしろ発見と未来のまちづくりの協演 —地域調査を通した市街地マップづくりとポスターセッション—

- 地域の芸術文化の活性化プロジェクト  
—「因州和紙の可能性」と「現代音楽における民謡の可能性」—
- 地域協働教育の意義と効果の検証
- 芸術による地域再生を担う専門人材育成プログラムの開発
- 自治体職員等の地域再生力向上のための研修会等の企画
- 縮小社会における社会的企業と生業創出にかかわる社会的基盤に関する考察
- 農山村における「若者」人材を活かした地域づくり
- 包摂型コミュニティ形成プロジェクト
- 地域包括ケアシステムの形成
- 障害児教育の向上
- 日本在住外国人学童の読み書き困難の実態把握とその改善
- 青年期における地元志向性とそれに関わる発達課題
- 持続可能な市街地の再生
- 歴史的建築物を活用したアートによる中心市街地の再生
- 人口減少時代の行政評価
- 地域政治と地域の規程要因：投票率の空間分析
- <地方の知の系譜>の評価と発信—鳥取が輩出した文化人—
- 伝統文化の継承に向けた地域と学校の取り組み
- 郷土の伝統音楽の再生を担う学生参画による《貝殻節》の教育実践
- 自然環境を活用したスポーツによる地域活性化の検討
- 地域の個性発信に向けた「鳥取砂丘学」の構築



歴史的建築物を活用したアートによる中心市街地の再生

地域志向教育研究

- 中山間地域の総合的地域計画の担い手としての新しいコミュニティのあり方に関する研究
- 地域にイノベーションを引き起こす社会的仕掛けとしてのビジネスモデルの創出  
—森林、アート、まなび、起業—
- 白兎海岸の地層・岩石の成り立ちを読み解く—ジオツーリズムへの発展に向けて—
- デジタル・ファブリケーション技術を有する市民工房ネットワーク  
—「ファボラボとっとり」を活用したものづくり総合研究拠点の構築—
- 地域資源を活用した美術活動による教員研修の実践研究
- サテライトキャンパスにおける地域連携授業「地域づくり特別セミナー」の試行的実施
- 中山間地域の総合的地域計画の進行チェックシステムの開発とその担い手のあり方に関する研究
- 山陰地方の駆除獣や魚類加工残渣から得られる生理活性糖鎖や機能性タンパク質を利用する  
地域産業基盤システムの確立



伝統文化の継承に向けた地域と学校の取り組み



地域の課題解決力向上講座



## I 海外フィールド演習

アジアや北米をフィールドに地域学の様々な分野について、実際の現場で英語での調査を行います。また各地の学生達との交流やワークショップを行い、国際理解力やコミュニケーション力を培います。



### 1. アジア青年会議

**演習内容** アジアの学生とセミナーやワークショップを通じて、国際理解、国際協力、リーダーシップを学びます。

**研修先** 台湾(平成 28 年度) ※年によって開催場所は異なります。

| 対 象  | 地域学部学生        |          |  |
|------|---------------|----------|--|
| 募集人数 | 日 程           | 参加費用     |  |
| 4名程度 | 11月<br>(約1週間) | 約10～15万円 |  |



### 2. ベトナム・フエプログラム

**演習内容** 農村コミュニティと自然環境の調査、フエ大学学生との交流を行います。

**研修先** フエ大学(ベトナム・フエ)

| 対 象  | 地域学部<br>2年次学生以上 |       |  |
|------|-----------------|-------|--|
| 募集人数 | 日 程             | 参加費用  |  |
| 8名程度 | 2～3月<br>(約10日間) | 約10万円 |  |



### 3. 北米プログラム

**演習内容** 北アメリカで多文化社会とエスニシティを考察する海外調査を行います。

**研修先** カリフォルニア大学デービス校  
(アメリカ合衆国・カリフォルニア州) 他

| 対 象  | 地域学部<br>2年次学生以上 |       |  |
|------|-----------------|-------|--|
| 募集人数 | 日 程             | 参加費用  |  |
| 6名程度 | 2～3月<br>(約2週間)  | 約27万円 |  |



### 4. インドネシアプログラム

**演習内容** インドネシアのハムカ大学学生とのワークショップ、エクスカーション等を通じて等身大のイスラーム社会を経験します。

**研修先** ハムカ大学(インドネシア・ジャカルタ)

| 対 象  | 地域学部<br>1年次学生以上 |       |  |
|------|-----------------|-------|--|
| 募集人数 | 日 程             | 参加費用  |  |
| 8名程度 | 3月<br>(約10日間)   | 約10万円 |  |

## II 語学・歴史・文化研修



### 1. 翰林大学語学・歴史・文化研修

**演習内容** レベル別に韓国語の初級・中級の2クラスを開講。また授業「韓国歴史文化」を開講し、フィールドワークを実施します。

**研修先** 翰林大学(大韓民国・江原道春川市)

| 対 象   | 地域学部<br>1～4年次学生 |       |  |
|-------|-----------------|-------|--|
| 募集人数  | 日 程             | 参加費用  |  |
| 15名程度 | 8月<br>(約2週間)    | 約10万円 |  |



### 2. 廈門大学語学・歴史・文化研修

**演習内容** レベル別に中国語の初級・中級の2クラスを開講。また授業「中国歴史文化」を開講し、フィールドワークを実施します。

**研修先** 廈門大学(中国・福建省)

| 対 象   | 地域学部<br>1～4年次学生 |       |  |
|-------|-----------------|-------|--|
| 募集人数  | 日 程             | 参加費用  |  |
| 10名程度 | 3月<br>(約2週間)    | 約10万円 |  |

## Faculty of Regional Sciences

The Faculty of Regional Sciences was established in 2004 in order to foster the development of key individuals who can create prosperous futures for regions. “Region” is a term that refers to an area where people live and in which they build social relations.

The world consists of overlapping regions that differ by scale and characteristics. Many problems that people are trying to address today can be better understood by using regions as the basic units on which to center their studies. To that end, the field of regional sciences serves to re-conceptualize existing academic frameworks. Our mission is to develop key individuals with a passion for creativity who offer specialized knowledge and skills in the regional sciences.

## Majors

### Studies of Regional Creation

In societies facing population decline, situations around region are reaching new levels of complexity. Concerns such as decreasing birthrates and aging society, population movement from rural to urban area, dilution of the regional community, the decline of the central area, and financial stringency in local government are in many cases interrelated. In order to confront these problems in region, not only interdisciplinary theory formation, but diverse partnerships and collaboration between citizens, local government, NPOs, and businesses are needed. In this major, students will explore innovative solution for regional problems and acquire the skills necessary to become key individuals who can contribute towards building a desirable region.

### Studies of Education and Human Resource Development

In this major, students will study a variety of subjects in specialized fields encompassing psychology, pedagogy, special education, curriculum and instruction, and science of early childhood care and education. These subjects are intrinsically related to educational support and welfare. Students will also learn ways to cope with a variety of education-related issues. Through these courses and seminars, this major aims at producing specialists who can contribute to an improved quality of education, with a focus on training skilled teachers.

### Studies of Global and Regional Cultures

This major deals with the study of culture, with a special focus on analyzing cultural aspects of local and global regions. It seeks to provide students with a solid understanding of key cultural topics such as language, history and religion, to develop critical and creative thinking, and to foster the ability to view regions from a cultural perspective. During their coursework, students will explore a broad range of cultural concepts, topics and issues. They will examine case studies of culture in local regions and in diverse world regions including Europe, Asia, Africa and the Americas. Our educational approach involves innovative teaching methods in the classroom as well as off-campus fieldwork in local regions and overseas. Through our courses and seminars, we aim to develop graduates who can apply their specialized cultural knowledge and skills to contribute to the development of regions rich in culture and creativity.

## Child Development and Learning Research Center, Faculty of Regional Sciences

The Child Development and Learning Research Center carries out research on child development and learning in collaboration with the affiliated schools of Tottori University. We conduct research on classroom practices in the university's affiliated schools and carry out developmental cohort studies and related brain research in cooperation with colleagues in the Faculty of Engineering and the Faculty of Medicine. We also promote collaborative research with child development research centers in Osaka University, Hamamatsu Medical College, Kanazawa University, Chiba University, Fukui University and Hirosaki University.

## Art Center, Faculty of Regional Sciences

The University Art Center of the Faculty of Regional Sciences provides training for students in the area of culture and the arts, works closely with local communities, and carries out education and research aimed at promoting, developing and maintaining regional arts. Members of the Center are active in promoting and supporting activities in various fields of arts. The Center aims at working to improve the quality of life and invigorating regional society through culture and the arts.



## 1. 教育研究上の理念、目的

持続性社会創生科学研究科は、わが国とわが国を取り巻く経済、社会、環境が大きく変わろうとしている中で、地球規模の課題と地域の課題に対する幅広い理解のもとに、自らの専門性を活かして持続可能な社会の創生を担っていくための人材を育てることを目的としています。従来の学問分野の枠を超えて、持続可能な社会づくりに関わる俯瞰的な思考力を身に付けた人材養成を行うため、本研究科博士前期課程には、地域学専攻、工学専攻、農学専攻及び国際乾燥地科学専攻を設置します。

人口減少・高齢化社会、グローバル化時代に向けた持続可能な社会の創生に当たっては、地域の人々の生活、文化、教育等の面において社会の仕組みづくりに関わるができる知識と能力をもった人材の養成が求められています。地域学専攻は、このような社会的ニーズに対応するべく、高度な専門性を身に付けるため地域創生コースと人間形成コースの2コースを設けます。さらに、専門を超えた教員からも指導を受けることができる教育体制を取ることにより、地域の仕組みづくりと地域の人づくりを並立させて地域社会を創生する人材を養成します。

## 2. 養成する人材像

地域学専攻では、公共的課題の解決や個性豊かで持続可能な地域を創っていくために、地域を総合的に把握する能力を有し、かつ高度で専門的な知識と実践力を兼ね備えた人材を養成します。

### ・地域創生コース（入学定員10名）

公共的課題の解決や個性豊かで持続可能な地域の創造をめざすために、地域創造分野や国際地域文化分野の知識をベースに、地域政策や地域づくり、文化資源の活用、コミュニティネットワークの形成など、人の視点を重視した地域づくりを行うことができる地域のキーパーソンを養成します。

### ・人間形成コース（入学定員10名）

人間形成に関わる諸理論と実践を学び、地域における教育に関わる資源を活用した生涯にわたる人づくりという視点から、地域課題に対応した地域の持続的発展の一環としての活動を担うキーパーソンを養成します。

地域創生コースは「地域づくり」を、人間形成コースは地域づくりに不可欠な「地域の人づくり」を主導する人材を養成します。また、1専攻にこの2コースが存在することにより、地域づくりをその担い手づくりと結びつけて構想できる人材、また地域の人づくりを地域づくりと結びつけて構想できる人材を養成します。

## 3. 学位の名称及び教育課程

### (1) 学位の名称

地域創生コースの修了者の学位は修士（地域学）（Master of Regional Sciences）、人間形成コースの修了者の学位は修士（教育学）（Master of Education）です。

### (2) 教育課程の編成の考え方及び特色

持続可能な地域社会の創生という課題に向けて、自ら考えるとともに、様々な専門分野の人々と連携して答えを見つけ出していくことができる能力を養うために、従来の伝統的な専門分野を超えて幅広く学び、かつ専門性を深めることが可能となるカリキュラムを編成しています。

#### ① 研究科共通科目の概要

##### 【基盤科目】

高度専門職業人としての素養を身に付けるとともに、持続可能社会について広く理解し、創生していくための基本的な知識を総合的に学ぶことができる科目です。

##### 【超領域科目】

持続可能社会に関して俯瞰的に物事が考究できる能力を身に付けるため、専門領域を超えて体系的に学ぶことができるように、「環境」、「地域」、「グローバル」の科目群から構成されている科目です。

#### ② 専門科目の概要

地域学専攻では、公共的課題の解決や個性豊かで持続可能な地域づくりに関わる必要な専門性を深めるため、以下の科目群を設けています。

##### 【基幹科目】

大学院での研究と論文作成を充実させるための科目として、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を設けています。

##### 【展開科目（地域創生コース）】

これまで本学で実施してきた地域づくり人材を育成するための地域学をベースに、公共的課題の解決や個性豊かで持続可能な地域づくりに必要な専門性を深める科目です。また、地域学と工学の教育資源を融合し総合的な力を養うプログラムとして、地域マネジメントスタディズを設けています。

##### 【展開科目（人間形成コース）】

地域づくりのための幅広い分野の知識を修得し、地域で活動する人々の生涯にわたる人間形成を通して地域づくりに必要な専門性を深める科目です。

## 4. 修了後の進路

地域創生コース修了生の進路としては、公共政策に関わる自治体やシンクタンクの職員、金融機関や各種コンサルタンツなどの民間企業の職員、地域からのボトムアップにより種々の課題に対応するNPOやNGOの職員及び中学校・高等学校の教諭などがあります。

また、人間形成コース修了生の進路としては、生涯教育や教育計画にかかわる自治体職員、保育所など福祉施設の職員、教育関連企業の職員、特に学校づくりや学習支援能力を要求される小学校・特別支援学校・幼稚園の教諭などがあります。

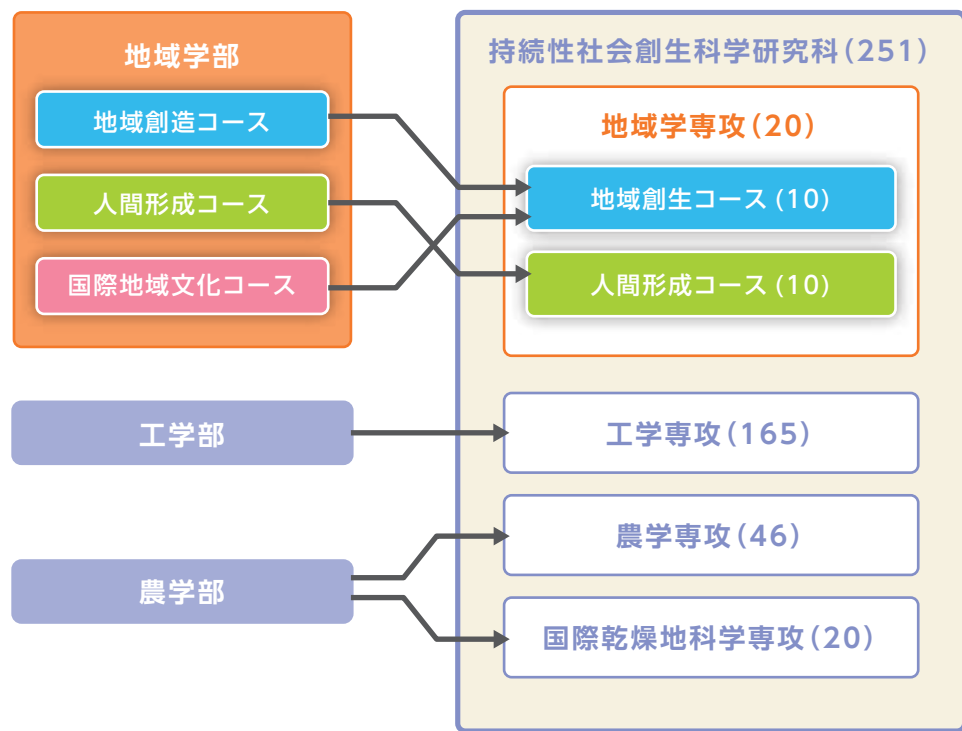
## 5. 取得できる教員免許状

持続性社会創生科学研究科地域学専攻を修了した者のうち、所定の授業科目の単位を取得すれば、次表の教員免許状（専修免許状）を取得することができます。なお、そのための基礎資格として、該当する校種・科目の一種教員免許状を所持していることが必要です。

| コース名    | 取得できる教員免許状（専修免許状）                            |
|---------|----------------------------------------------|
| 地域創生コース | ●中学校教諭（社会） ●高等学校教諭（地理歴史，公民）                  |
| 人間形成コース | ●幼稚園教諭 ●小学校教諭<br>●特別支援学校教諭（知的障害者、肢体不自由者、病弱者） |

（注）教員免許状については、課程認定申請中（平成28年9月現在）であり、変更になる場合があります。

### 》平成29年度からの鳥取大学大学院（鳥取地区）



（ ）内は入学定員